

事業所名 ウィッシュかがみの

支援プログラム

作成日

令和6年

12月

27日

法人（事業所）理念	障害のあるなしにかかわらず、一度きりの人生を、その人らしく送ることが可能になるように努めます。		
支援方針	授業の終了後又は休業日に、生活能力向上のために必要な訓練、社会との交流の促進、その他ひとり一人の発達過程や特性に応じた活動を提供します。「いや」「後でする」も含めて、子どもの「したい!」「やりたい!」を応援します。		
営業時間	営業時間 サービス提供時間	8時 30分から	18時 30分まで
	送迎実施の有無	あり なし	
支 援 内 容			
本人支援	健康・生活	<ul style="list-style-type: none"> 検温、体調管理、生活リズムの把握、日中の活動量や疲れへの配慮 排泄、更衣の自立に向けた取り組み 障害特性に起因する生活上の困難さに対して、一人ひとりに合わせて手立てをこまめに行います。 	
	運動・感覚	<ul style="list-style-type: none"> プール（夏季）や公園活動を通して、姿勢と運動・動作の向上をはかります。 感覚の特性をふまえて、感覚の偏りに対する環境調整（パーテーション、イヤマフ）を行います。 好きな感覚（紙ちぎり、毛布など）を保障します。 創作活動、課題学習を通して、手先の巧緻性などにつなげます。 	
	認知・行動	<ul style="list-style-type: none"> 行動障害の予防及び適切な行動の獲得（トークンなど）につなげるために、環境調整をします（パーテーション、カウムダウンエリアなど）。 感覚の偏りに配慮して、環境調整をします（パーテーションなど）。「あとどれくらい」が分かるように、視覚的（タイムタイマー、時計の矢印など）に提示します。 活動の見通しにつながるように、写真カードなどでスケジュール提示します。 自分の位置や材料や道具の位置を、理解できるように手立てをこまめに行います。 	
	言語 コミュニケーション	<ul style="list-style-type: none"> 言葉や絵カード、写真などを使って、一人ひとりに合わせて、次に何をするのか、分かりやすい方法で伝えていきます（現物、スケジュールなど）。 子どもにあわせて、意思疎通の方法を調べ、必要に応じて手立てをこまめに行います（PECS、電子パッド、筆談、コミック会話など）。 手順書を使っての調理活動。 「いや」「後でする」という気持ちも伝えることも大切なので、写真カードなどで「どっち」が選択してもらいます。 	
	人間関係 社会性	<ul style="list-style-type: none"> 社会資源を活用し、地域社会への参加を促します（買い物、外食、公共施設の利用など）。 遊びを通してルールや役割などを理解し、社会性（順番、共有）の発達を促します（タイムタイマー、順番表など）。 	
家族支援	<ul style="list-style-type: none"> 必要に応じて保護者と面談を行い、相談援助を行います。 家族の預かりニーズに応じた延長支援を行います。 連絡帳で情報共有を図ります。 お迎えの際に、行事等の様子を見てもらいます。 	移行支援	<ul style="list-style-type: none"> 家族と情報共有を行いながら、将来を見据えた支援（就労、事業所見学、買い物や公園・図書館等の活動を通じた、地域の子供達との交流の機会）を行います。
地域支援・地域連携	<ul style="list-style-type: none"> 必要に応じて関係機関（相談支援、他事業所、成人の事業所、学校）と関係を図ります。 社会資源を活用し、地域社会への参加を促します。 	職員の質の向上	<ul style="list-style-type: none"> 高知県社協、療育福祉センター主催の研修 法人内研修、施設見学 木鶏会（組織風土、人間力）
主な行事等	<ul style="list-style-type: none"> 調理 ・季節の行事（七夕、かき氷、すいか割り、秋まつり、ハロウィン、クリスマス会、節分、花見など） 外食 ・公共施設（図書館など）の利用 		